

9月20日～

前穂高・奥穂高

藤村 敏幸

山名	前穂高・奥穂高	山行名	前穂高～奥穂高縦走
ルート	岳沢・紀美子平・前穂高・吊り尾根・奥穂高・涸沢・横尾		
山行日	令和3年9月20日～22日	天候	曇り・快晴・曇り
参加者	CL：藤村 SL：西川		

	コースタイム		前穂高往復後美子平発	10:45
	地名	時:分	奥穂高岳着	12:55
	9/20 岳沢登り口	13:00	奥穂高岳発	14:20
	岳沢ヒュッテ着	15:20	穂高岳山荘着	14:55
	9/21 岳沢ヒュ発	6:00	9/22 穂高岳山荘発	6:30
	紀美子平着	8:50	上高地着	14:50

数年前に佐坂さんが計画されたが天候が悪く中止になり、それから何時か登りたいと思い続けて今回ようやく実現することができた。思いのほか参加者が少なく2人での山行となる。予報では初日から晴れで素晴らしい景色を見られると期待して上高地に到着するも、河童橋から眺める前穂高は雲に隠れ、またもや予報が外れたと落胆する。岳沢ヒュッテまで分厚い雲の下を登る。岳沢ヒュッテでは部屋名ジャンダルムに泊まる。夕闇になるとあたり一面ガスに覆われ寝るころにはガス雲の中で屋外の階段や廊下は塗れていた。消灯後なかなか寝付けないので、部屋の外にでると1分も視界がなく霧雨があたりを充滿していた。ガス雲の中では危険な吊り尾根はとて登れないので明日は下山と決めて床につく。朝方夢の中で雲海が見えると聞こえた。翌日目覚め小屋のテラスから見ると暗闇の底に白い雲が横たわり、しらむにつれて雲が全くない素晴らしい風景が見えてきた。心うきうき朝食をしっかりと食べ見上げる穂高連峰を写真に収め登り始める。山道は意外にも濡れておらず、歩き安く階段を昇るように高度を稼ぐことができた。休憩の度に、眼下の上高地を覆う雲海を眺め、また西穂高連峰に光りがさし徐々にのこぎり山の峰が黄金色に染まる様をみることもできた。岳沢ヒュッテから紀美子平までは梯子が1カ所で危険な所もなく予定より早く到着する。前穂高岳頂上は360度の大パノラマで、藍色の青空の下、まぶしい紫外線を浴び穂高連山の岩稜を30分も眺めてしまった。紀美子平から奥穂高岳までの吊り尾根はYouTubeで見ると恐怖感はなく道幅も広く傾斜も緩やかで、左手に西穂高連峰・上高地方面を眺め、岩道の登り降りを何回も繰り返し水平道を進む。南稜の頭の手前に切り立つ岩壁があり鎖を持ち三点確保をしながら登る。この場所だけがYケンなみの急斜面で手応えがあった。快晴とほどよい風のおかげであまり疲れることもなく大きなケルンと祠のある奥穂高岳に到着する。頂上の南に垂直なコブ岩のジャンダルムがあり西川さんは悠々と馬の背付近まで進む。北川さんのアトリエにもこのコブ岩の頂上で手を振る写真を拝見したことがある。穂高岳山荘手前の下り坂にはクサリや梯子が多くあり少し緊張する。山荘内は天気がよく心うきうきの客がざわつき騒然とした雰囲気でもコロナ禍は関係なかった。談話室の片隅に「藁に座る今田重太郎さんとモンペ姿の奥さんが仲良く映る小さい写真」が飾られていた。温厚そうな重太郎さんが、物資がない昭和26年に険しい山に入り5歳の紀美子を遊ばせてよくぞ新道を開拓されたものである。75歳までガイドをされ平成5年95歳で穂高に抱かれたそうです。翌日はガス雲のなかザイテングラードを慎重に降り、染まり始めた紅葉の涸沢カールの中を通り横尾に到着する。すばらし山行に同行していただいた西川さんありがとうございました。

ヒヤリハットなし



前穂高岳頂上



西穂高連峰



酒沢カール



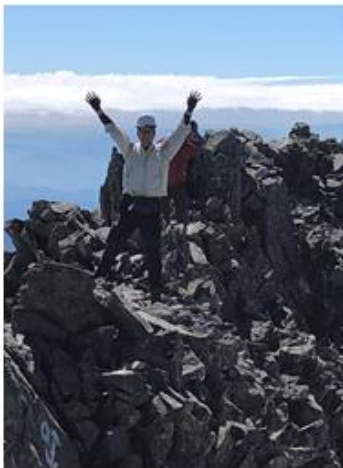
南稜の頭の登り



南稜の頭の鎖場



吊り尾根全景



馬の背付近



ジャンダルム



奥穂高岳頂上